

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名 一般国道153号 <small>あすけ</small> 足助バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局			
起終点 自：愛知県豊田市足助町 <small>とよた あすけ</small> 至：愛知県豊田市富岡町 <small>とよた とみおか</small>		延長 4.0 km			
事業概要 一般国道153号は、名古屋市から豊田市・飯田市等を経て塩尻市に至る延長約220kmの道路である。足助バイパスは、豊田市足助町の中心市街地を通過する現道153号の道路交通の安全確保・交通円滑化を目的に計画されたバイパス道路である。					
S57年度事業化	S62年度用地着手	S63年度工事着手			
全体事業費	160億円	事業進捗率	70%	供用済延長	0.4km
計画交通量	7,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 4.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 16/167 億円 事業費：10/145 億円 維持管理費：5.6/22 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 68/207 億円 走行時間短縮便益：63/178 億円 走行費用減少便益：5.1/25 億円 交通事故減少便益：0.02/3.5 億円	基準年 平成19年	
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（幹線道路の交通混雑緩和） ・国土・地域ネットワークの構築（交通不能区間の解消） 他 6項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見 平成18年11月に愛知県知事より足助バイパスを広域幹線道路としての整備推進の要望あり。 平成19年2月に豊田市幹線道路整備促進協議会より足助バイパスの事業促進の要望あり。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・狭隘な道路空間、交通障害区間の存在 ・広域行政圏の形成					
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・事業進捗率は70%、用地取得率は86%(平成19年度末見込み)。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・平成19年度末に足助町～富岡町までのバイパス区間（L=2.5km）が供用予定。					
施設の構造や工法の変更等 ・全体事業費約160億円のうち、約24億円のコスト縮減（主な縮減内容：既設道路の有効活用による橋梁幅の削減）を図る。 ・代替案として考えられるルート変更は、事業の進捗状況（用地買収率：86%、バイパス区間：100%）より不可能であり、計画変更は困難。					
対応方針		事業継続			
対応方針決定の理由		以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。			
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。